

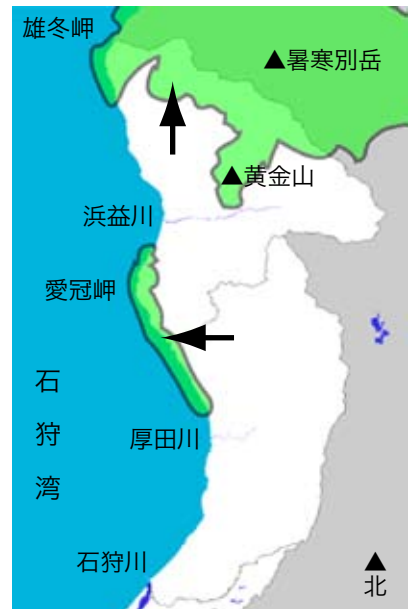
しよかんべつてうりやぎしりこくていこうえん
暑寒別天売焼尻国定公園

暑寒別天売焼尻国定公園は昭和37（1962）年4月指定の暑寒別道立自然公園と、昭和39（1964）年2月指定の天売焼尻道立自然公園を統合し、平成2（1990）年8月1日にできた国定公園で、北海道が管理しています。総面積43,559haで、地域的には石狩市からはばろ羽幌町にまたがっています。国定公園としては全国で55番目、道内では5番目です。

石狩市内では厚田・はまます浜益区の海岸部、暑寒別連山、こがね黄金山などが含まれます。この付近の地質は新第三紀中新世～第四紀更新世（2300万年前～1万2000年前）の火山活動による火山岩が多く、海岸のほとんどは岩場で、100m近い断崖や柱状節理、奇岩がみられます。奇岩では、厚田区のルーラン海岸のアモイの洞門やネコ岩が景勝として有名でしたが、国道231号線の部分変更により、陸側から見られなくなりました。海中の岩場にはホンダワラをはじめとする海藻が生えるため、昭和30年代初めまでニシンが産卵に押し寄せ、江戸時代から有数のニシン漁場として知られ、番屋建築も多数ありました。

浜益区の「黄金山」（別名浜益富士、739.1m）はアイヌのチャシ（砦）伝説をもち、国の名勝「ピリカノカ」に指定されています。この山付近ではイカリソウやサワフタギなど石狩低地帯以南の植生もみられ、特異です。実田地区は、日本昆虫学会によって国蝶に指定されたオオムラサキの生息地です。このほかおくりげ送毛峠頂上に樹齢数百年とされる「千本ナラ」や、黄金山山麓の「黄金山のイチイ」などの古木が知られています。

（石橋孝夫）



暑寒別天売焼尻国定公園の範囲
 （下図は北海道ホームページより）

- (1) 北海道（ホームページ）暑寒別天売焼尻国定公園。
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/environ/parks/syokanbetsu.htm>
- (2) 佐藤謙（1993）1992年観察会記録－黄金山（浜益郡浜益村）。ポタニカ（北海道植物友の会会報），9：13-14.
- (3) 八木健三（1984）暑寒別，天売，焼尻国定公園指定促進調査（自然環境）報告書。北海道。